

化粧文化研究者ネットワーク 第34回研究会のお知らせ

若葉が薫る頃となりましたが、会員の皆さまにおかれましてはお変わりないでしょうか。
さて、下記の通り「化粧文化研究者ネットワーク 第34回研究会」を開催致しますので、
ご案内申し上げます。

多数の皆さまのご参加をお待ちしております。

代表 北山 晴一

記

◆日時：2015年6月27日(土) 14:00—17:00

◆会場：(株)資生堂 汐留FSビル 11階 SABFA(サブファ)講義室
〒105-0021 東京都港区東新橋1-1-16 ※地図：次ページ

◆スケジュール

14:00—14:10 開会のご挨拶

14:10—15:40 講演：三橋 順子さん ※プロフィール：後述

テーマ：「『女』の顔を作ること、『女』をすること —女装と化粧の関係史—」

【概要】私の友人の女装者は、女装することを「お化粧の道（化粧道）」と言っていた。江戸時代の歌舞伎の女形も「女」の顔を作ることに関心し、鎌倉時代の寺院の稚児も「翠黛の貌、紅粉の粧」を求められた。

20世紀の女装者たちにとっても、化粧することは「女」をすることと、ほとんど同義だった。しかし、両者の関係が当たり前と思われるためか、その関係に焦点をあてた論考はないように思う。

そこで、あらためて女装と化粧の関係を前近代から現代まで文化・社会史的に考えてみたい。

そこから、化粧のもつ意味に少しでも迫れたらと思う。

15:40—15:50 休憩

15:50—16:50 討議、質疑応答

16:50—17:00 諸連絡

講演者プロフィール：三橋 順子（みつはし じゅんこ）

1955年生、埼玉県秩父市生まれ。

性社会・文化史研究者。明治大学、都留文科大学など非常勤講師。専門はジェンダー／セクシュアリティの歴史、とりわけ性別越境（トランスジェンダー）の社会・文化史、及び、買売春（主に「赤線」）の歴史、着物文化論（銘仙の社会史）。

主な論文：

「往還するジェンダーと身体—トランスジェンダーの経験—」（講座・身体をめぐるレッスン第1巻『夢見る身体 Fantasy』岩波書店、2006年）、

「性と愛のはざま—近代的ジェンダー・セクシュアリティ観を疑う—」（『講座 日本の思想 第5巻 身と心』岩波書店、2013年）など。

主な著書：

『女装と日本人』（講談社現代新書、2008年）

『性欲の研究 東京のエロ地理編』共編著（平凡社、2015年）

◆研究会参加費：500円

◇研究会終了後、17:40-2時間程度懇親会（別途会費制）を予定しております。
こちらも是非ご参加ください。

◆お申し込み

研究会・懇親会へのお申し込みは、下記(1)-(4)をご記入ください。

- (1)ご所属（学校名、会社名など）
- (2)お名前（フルネーム）
- (3)研究会 ご出席 or ご欠席
- (4)懇親会 ご出席 or ご欠席

お申し込み先：

化粧文化研究者ネットワーク 事務局窓口 中野 mitsuko.nakano@to.shiseido.co.jp

Tel (直通):03-6253-1288

お申し込み締め切り：6月15日(月)

■会場地図



- JR線「新橋駅」汐留口 徒歩3分
- 東京メトロ銀座線「新橋駅」 徒歩3分
- 都営浅草線「新橋駅」 徒歩1分
- 都営大江戸線「汐留駅」 徒歩4分
- ゆりかもめ「新橋駅」 徒歩1分